



炬火を掲げていざ謳う

No.33



我々の泉鳥取

2022年1月23日（月）

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

連結机

— 机椅子一体型 意外に古い歴史 —

泉鳥取高校の現在の学級定員は40名ですが、今は1学級30人程度となっています。しかし、昔は1教室に51人入っていたことがありました。その秘密はこの「連結机」にあったのです。

物理実験室にあった昔の連結机。これだと教室に50個置くことができました。 ⇒



この連結机は、机と椅子が一体となっています。大阪府立高校では、新制高校スタート以来、この形の連結机（ただし、木製のもの）が使われていました。本校でも、昭和51年の開校から平成7（1995）年頃まで、すべての生徒の机が写真にあるスチール製の連結机でした（障がいのある生徒は除く）。1期生の卒業アルバムを確認すると、すでに1期生から、このタイプが使われていたことが分かります。

子が分離しているタイプ）が導入され、連結机は徐々に姿を消していきました。今から思えばよく辛抱してくれていたな、と思います。



イギリス アンティークの連結机

教室の設計もこの机を基本に作られており、1教室に7列×7脚=49脚の机を並べました。効率は良いものの、体の大きな生徒には窮屈で、椅子座面後方のビスを外したり、背もたれを押し曲げて座ることもありました。泉鳥取高校では、昭和61（1986）年入学の11期生が48人学級12クラス576人入学しており、原留生を含めると51人学級ができましたが、詰めれば全員の机が入りました。



この机（机椅子一体型）の歴史は意外に古く、イギリスでは18世紀にはすでに使われていたようで、アメリカでも使われていました。ただし、当時の者はすべて木製で、机の天板や椅子部分は天板がはねあげられ、テキストの出し入れができるようになっていました。この机が明治時代に輸入され、旧制中学校などで使われていたようです。生徒たちの学習に必要な最小限の面積の机、ということで活用されました。



平成5（1993）年に高校の募集定数が1クラス40名となり、平成7（1995）年頃から徐々に分離机（机と椅